



平成30年5月11日(金)
校長通心 No.37 校長 馬渡教三



母の日に贈る…

てっせん (星野富弘)

母の日のプレゼント
何にしようか考える
母が一番喜んでくれるもの
母が一番ほしいとっているもの
いくつかあるのだけれど
それはみな台所用品だったり
畑で使うものだったり……
家族のために使うものばかり
毎年考えて涙ぐむ
母の日のプレゼント

一番苦手なのは

(サトウハチロー)

一番苦手なのは
おふくろの涙です
何も言わずに
こっちを見ている涙です
その涙に 灯りがゆれたりしていると
そうして灯りが
だんだんふくらんでくると……
これが一番苦手です



母という字を書いてごらんなさい (サトウハチロー)

母という字を書いてごらんなさい
やさしいように見えてむずかしい字です
恰好のとれない字です
やせすぎたり 太りすぎたり
ゆがんだり 泣きくずれたり
……笑ってしまったり
お母さんにはないしょですが本当です



「信任の総量(クレジット)」=「集中力」&「バランス感覚」

「クレジット」と聞くと、なんとなくお金のにおいがしてくる。実際「クレジットカード」は、現金を持ち歩かなくても現金を支払う代わりにパートやコンビニでカードを見せればサインだけで支払いを済ませられるという便利なものである。これは、銀行の口座に毎月一定額の収入があることを信用して現金の代わりに使用できるものだけれど、アメリカでは、大学で取得する「単位」を「クレジット」と呼ぶんだそうだ。そして「単位=クレジット」は、将来に向けての「経験値」であり、「他者からの信頼と共感を得ること」でもあり、「大人として必要な教養」でもある……つまり、勉強してとった単位が世間一般で通用する「信任」(相手を信用して仕事をまかせること)の証となるのだそうだ。『つらい勉強をするのも、苦しい仕事をするのも「信任」を高めてより豊かな人生を切り拓くために必要だから頑張れるのだ!!』と、アメリカ人は言っている。

つまり、「取得した単位」は「クレジット」であり、「信任の総量」でもあるのだ。そして、それはちょうどテレビゲームのロールプレイングゲームなどで積み上げていく「経験値」ととても似ているような気がする。新しい武器を手に入れるにも、敵を倒すにも「経験値」を積まないといけない。(秘密の言葉を賢者から聞き出したりして戦いながら、何層ものレベルをクリアし、姫を助けに行くみたい…) そう考えていくと、**中学生が学校で勉強するということは、自分自身という貯金通帳に、この「経験値」を増量し「信任」という通貨を貯めていくこと!** と言っていると思う。そうすることで、**みんなを取り巻く人たちが様々な集団⇒学級・学年・学校全体からの「信任」が厚くなっていく。これは社会人に例えたら、素晴らしい仕事がまわってくることに似ているんじゃないかな?…人生の選択肢が増え新しいチャンスに恵まれていくから、自分の思い描いている夢が実現しやすくなっていく**ということである。

それじゃあ、「クレジット」=「信任の総量」を積み上げるのに何が 필요한のか?…これがいつも言っている「文武両輪&絆シャフト」になる。今、中学生のみんなが身につけなければならないのは「**集中力とバランス感覚**」だと思う。「集中力」とは、意識が対象に真っ直ぐに向かっていて、気が散っていない状態である。大好きなことに没頭していると「時間がたつのを忘れてしまう」ということは誰にでも経験があると思う。この集中力は、「勉強すること」で一番鍛えられると思っている。つまり「**文の車輪**」である。一方「バランス感覚」は、身体の各部分の動きの調和であるから、(転んだときケガしないように受け身ができるとか、どれくらい血が流れたら病院へいった方がいいとか…) おもに「行事・部活」「集団生活」の中で鍛えられる感覚とっていいと思う。つまり「**武の車輪**」である。そして、その中でも、人間関係のバランス間隔が最も大切で、どれくらい言い過ぎると、この人は怒るのか?とか……仲の良い友だちが他のグループに行ってしまったときの悔しさや哀しさとか……仲良しとそれ以外の距離感……笑って許される範囲とそれを超える領域……仲間はずれの寂しさと一致団結して何かを成し遂げたときの喜び……など、これらは、どんなに必死に勉強しても身につくものではなく、学校・学年・学級をはじめとした様々な集団生活の中で養っていくものである。つまり「**絆シャフト**」である。だからみんなは、毎日毎日「絆シャフト」を太くしながら、文武の両輪をバランスよく回転させることで「集中力」と「バランス感覚」という財産を少しずつ身につけ、それと同時に「クレジット」=「信任の総量」を蓄積していつかというのだと思う。

もし、勉強するだけだったら、家でも塾でもできるけれど、人間はそもそも弱い存在だから一人で長い期間勉強を続けることが大変な人もいっぱいいるはずだ。ところが、**集団だと「みんなもやっているから…」とやれてしまうことがよくあるし、集団で学んでいると、多種多様な考え方にふれることができ、同じ問題を解いても自分とは違う答えを導き出す人にたくさん出会えるのである。おまけに、どうしてそう考えたのか?というコミュニケーションだって鍛えられる。つまり、「みんな一緒」に同じ体験をしても「一人一人」の受け止め方は違うんだ。ということにいろんな場面で気づかされるのである。そういう意味で中学校で学ばなければならないのは、そういういろんな考え方を持った人たちの良さをわかり、その良さに自分が支えられていることに気づくと同時に、自分の良さが周りの支えになり、個人も集団も成長していくのだということを実感していくことではないだろうか?**

来週は、テスト週間に突入する。文車輪をフル回転させ、集中力という財産をしっかりと身につけよう!!

